

# 春愁秋思の恋の果て。

原作 雪月海桜  
漫画 カズイ



恋人の聖地



一緒に遊ばない？



ねえ



僕、秋臣  
あきおみ  
君は？

…春香  
はるか

「春」なんだね

一緒に遊んでる  
子達は夏と冬が  
名前につくんだよ

いーう

きっと四季が  
揃ったって  
喜ぶよ

……み

…臣





夢…

あ…



大丈夫？

うん

それより  
春香

ここ



佐賀県  
はまのうら  
浜野浦の棚田  
ただ

44番目の恋人の聖地  
って所なんだって

次の旅行は  
ここにしないか

わあ！



秋臣くん

寝ちゃってた？

秋臣くんが  
決める所はいつも  
素敵だから楽しみ

じゃあ夏樹達にも  
連絡するよ

うん

僕、槻秋臣と  
恋人の桜井春香は  
小学校からの幼馴染で

あずまなつき まつうらとらうこ  
東夏樹、松浦冬子を  
加えた四季の漢字を  
名前に持つ者四人

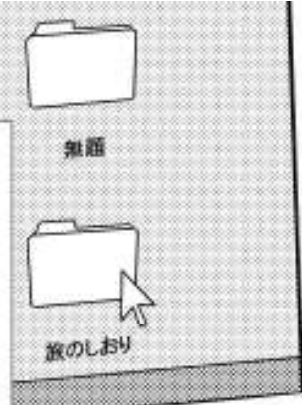
なんだかんだで  
この歳まで縁が  
続いている

休みを合わせて  
旅行に出る仲に  
なっていた

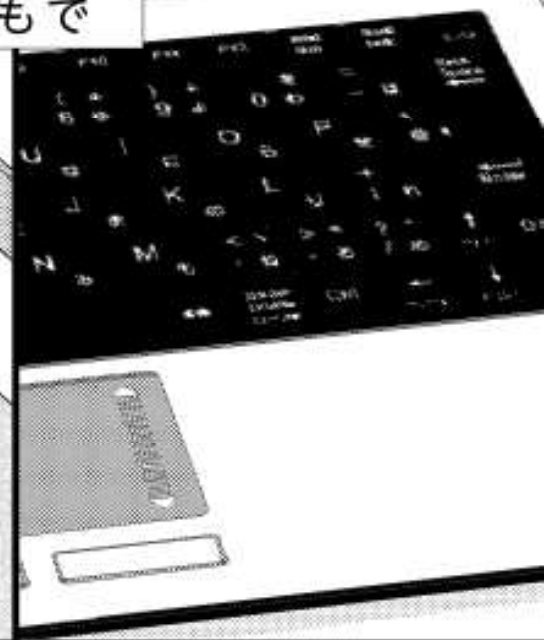




この所忙しかったので  
このメンバーでの旅も  
久し振りだった



春香は体が弱いから  
日程は一泊二日程度の  
ささやかなものだけだ



あれこれと準備する  
時間も合わせて  
楽しみの一つとなっ  
ていた



州佐賀国際空港

あーやっと  
着いた！

あーウソウソ！  
とーこちゃん  
は出会った時から  
変わらず若くて  
きれいだよ！

出会った時って  
小学生でしょ

狭い座席って肩  
凝るよねえ  
俺も歳かなあ

それより秋臣  
玄海町って遠いの？

ああ  
レンタカー借りて  
一時間半って所かな

同い年でしよう  
私まで年寄り  
扱いする気？

簡易マップとか  
おすすめの観光地とか  
まとめておいたから

気になる所があったら  
目を通しておいてくれ







やっぱ佐賀牛だよな  
丸ごと食べたい

海沿いの街よ？  
海鮮でしょう

私は莓……！



莓って言えば  
さがほのかが  
有名だけど

淡雪<sup>あわゆき</sup>って白い  
莓もあるんだって

春香が  
好きそうだ



……よし。  
どうせだし全部  
食べちゃおう！

とりあえず旅館に荷物  
置きに行きましょう。



冬子は？

着替えて来るって

000

あら



あらごめんなさい  
前に可愛らしい  
お嬢さんと来てた  
方かと…

いえいえ  
お気になさらず



お客様またいらして  
下さったんですね

ありがとうございます  
ございます

いえ…

こちらは  
初めてですが…



わ！とーこちゃん  
なんでも似合うねえ

お待たせ



どこでもいる  
感じだしなあ  
それで間違われた  
のかなあ

そう言えば  
そろそろ髪も  
切らなきゃな…

それなら  
アレ食べようか  
ブラッククランチ  
アイス

何それ？



流石に地元より  
暑いわね…  
冷たいものでも  
食べたいわ

クッキーがざくざく  
してるご当地  
アイスだよ

春香が前に来た時  
気に入って…

あれ？

前って

…？



春香…



秋臣くん

疲れてるから  
無理しちやダメ

ね？



あつきー  
お待たせ！

アイスと飲み物  
買って来たよ



あれ？  
何時の間に

わー  
ありがとう

日陰で休憩  
しましょ





しおりの片方  
こんなによれて  
いたっけ……？



飲み物……

……と



……あれ



あ  
ああ



ほら



秋臣くん

喉乾いちゃったから  
飲み物買ってほしい？

春香は夏樹から  
貰ったジュースは  
どうしたんだろう？

アイスは食べて  
いたっけ？

なんだか記憶が  
曖昧だ

少し前の事なのに  
よく思いだせない

秋臣くん？

太閤椿…  
ないうつばき  
圧巻ね

樹齢四百五十年…

やば、人生五回分  
くらい？

周りがどんどん  
変わっていくのに

自分だけここで  
ずっと咲いているの

どんな気持ち  
なのかなあ…

そういえば  
椿の花言葉って

「控えめな素晴らしさ」  
「謙虚な美德」らしいよ

春香に  
ぴったりだ

私控えめ…かな？  
人見知りはある  
けど…



と、とーこ  
ちゃん？



春香に罪なんて  
あるわけな…



あら。椿の  
裏化言葉は  
「罪を犯す女」よ

椿にも春が含まれて  
いるわね

春香はどんな  
罪を犯して  
いるのかしら



いまだって



貴方の心を  
縛っているわ

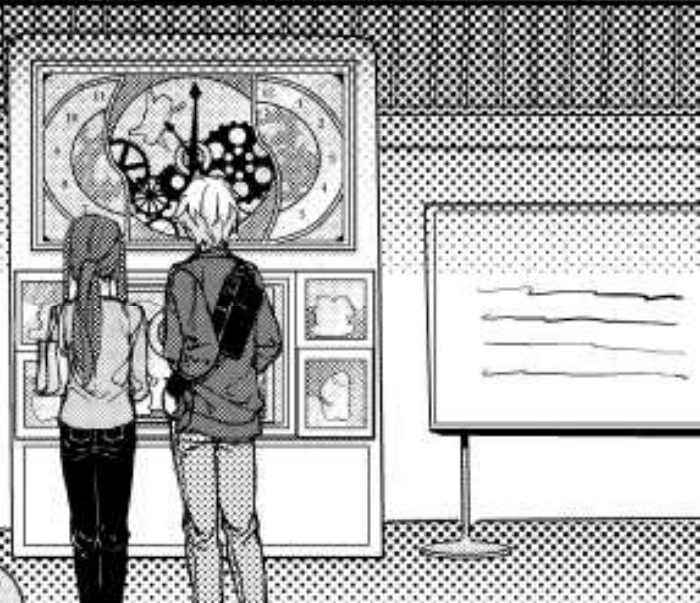




疲れたでしょ？  
休憩しよ！



ま、まあまあ！  
とーちちゃんも  
あっきーも！





いや、僕は  
構わないから  
春香に…

ごめんなさい…  
私…

あの…秋臣…

私も平気だよ  
冬子ちゃん  
顔上げて？



—  
ホント夏樹の  
一途さには  
感心するよ



仲直り出来て  
良かったね

ぽん



冬子も応えてくれると  
良いんだけどなあ



.....



脂とろが蕩とろける〜

うわ美味しい



私も

ちよつとジュース  
買って来るね



ねえ秋臣…

さつきは本当に  
ごめんなさい

もういいよ  
春香も気にして  
ないから



—でも

やっぱり  
良くないと  
思うの

貴方が安定  
しているのは  
嬉しいけど

こんなの  
いつか破綻  
するわ…



一体何を…



貴方だって

本当は  
分かってるんじや  
ないの？



…？

なんの事だ？

春香の事よ！

ご予約の際は  
四人分と伺って  
おりましたが…

あくすみません  
間違えちゃった  
みたいで

三名に直して…  
あ、四人分を出して  
貰っちゃってますよね

四人分で大丈夫です！  
すみません

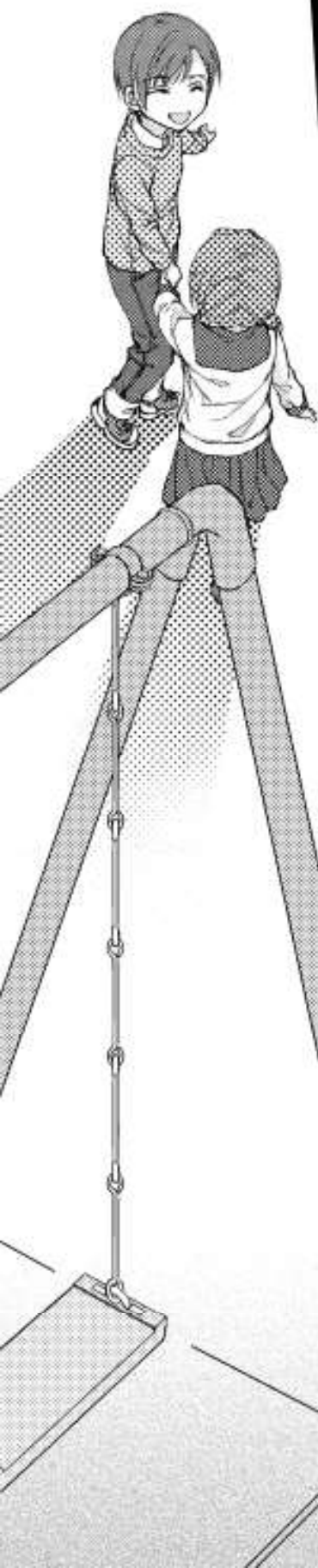
三名？

何を言っている？

僕たちは

秋臣？！

四人で



僕は

君とずっと  
一緒に




春香










最近忙しくて  
疲れているのか

昔の事ばかり  
思い出す




なんで僕は  
忙しかったのか


思い出そうとすると  
霞かすみがかかったみたいで



なのに最近の事は  
記憶あいまいが曖昧で



春香の姿ばかり



浮かんでは  
消えていく



あつきー!!!

良かった  
気が付いて…



あつきー急に  
倒れちゃってさ

タクシーで宿まで  
運んだんだ

疲れもあったん  
だと思うよ  
今日はもう休んで



夏樹…?  
僕は…

いいよ  
まだ寝てて



春香は…

冬子の部屋に  
いるのか

ありがとう…



ごめん  
せっかくの旅行  
なのに…

全然!  
気にしないでいいよ!

……春香

あっきー  
目覚ましたよ  
大丈夫みたい

そう……  
良かった

とーこちゃん

はるちゃんの事  
旅行の間は  
見守ろうって……

そう、だけど……



秋臣のあんな姿  
目の前にしたら  
私…

うん…



とーこちゃん  
あっきーの事  
大好きだから  
辛いと思う

でも、せっかく  
皆で集まれ  
たんだからさ

せめて明日までは  
俺達で見守ろう？

俺が  
支えるから



夏樹



ええ…  
分かった

とーこちゃんも  
今日はもう休みなよ

ごめんなさい

私あなたに  
甘えてばかりで



きっと皆同じ  
気持ちだと思う



はるちゃんも



いいんだよ

俺、とーこちゃんが  
大好きだけど

あつきーと  
はるちゃんの事も  
大好きだから





春香を  
見なかったか？

部屋にも戻って  
来なかったし  
荷物も手つかずで  
そのままなんだ

あ…



え、えーと…

そう！

恋人の聖地だったけ？

はるちゃん  
待ちきれなかった  
みたいで  
先に行ってるって

え…



春香一人で？！

そんな何か  
あったら…！！

あっさー  
落ち着いて！

はるちゃん  
だって大人  
なんだから

そっか

春香はもう  
大人で



あっきー!!

秋臣?!

僕達は大人で

だから



大丈夫?!

車で休んで



なのにその先に  
進めない

何かがおかしい





ずっと  
付き纏っている  
既視感と違和感

だけど考えると  
頭が霞がかって



おれ  
おれ

あれを確かめれば

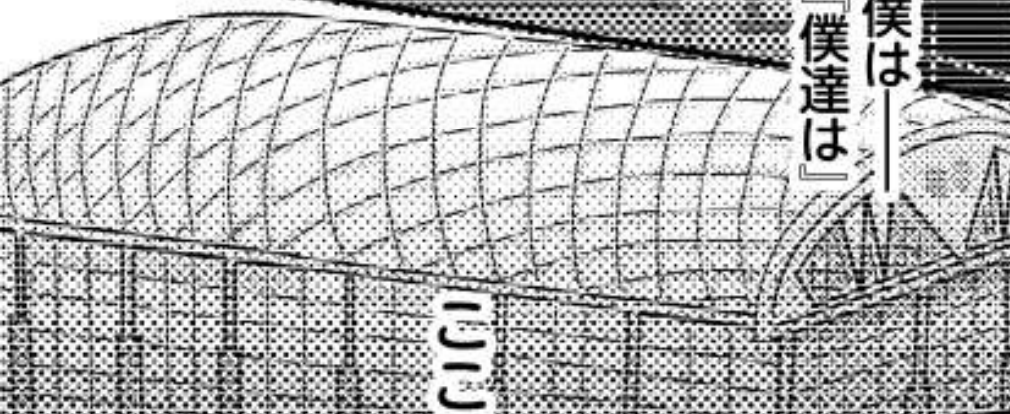


旅のしおり



そっすだ

なんで忘れて  
いたんだろう



僕は  
僕達は

ここに  
来た事がある



一年半前に

春香と一緒に





春香……！





田植えの時期の  
棚田

やっぱり  
綺麗だね

お水きらきら  
してる



そうだな…

前に来た時は  
一面緑だったから



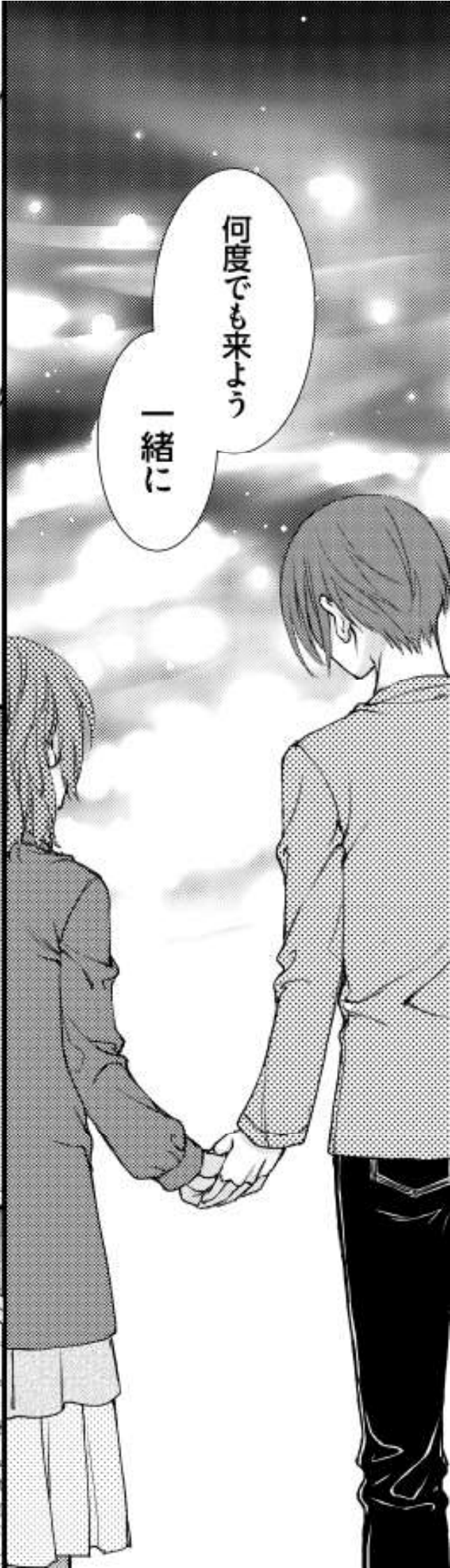
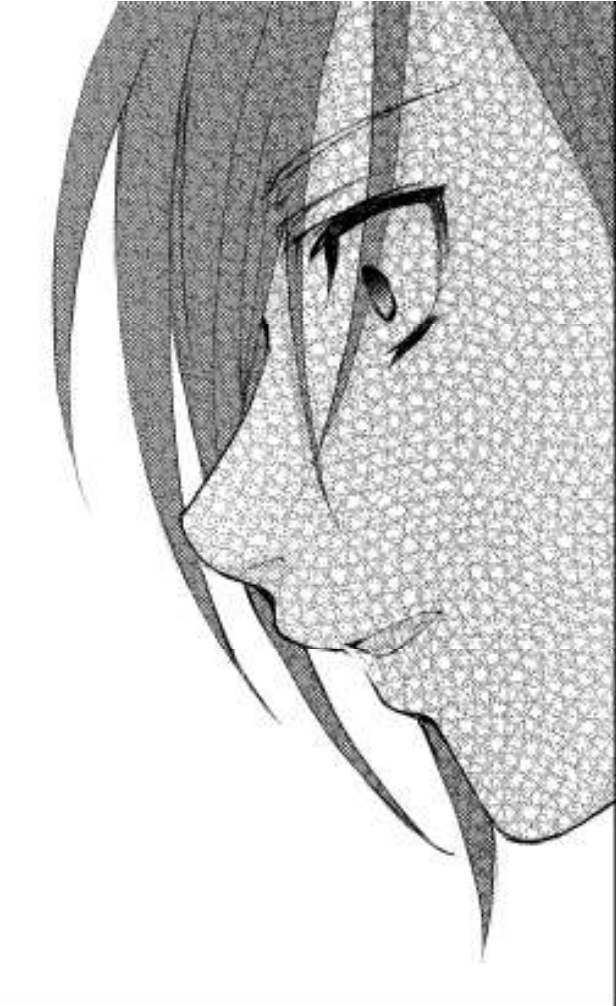
なら

来年また来よう



もう少し早かったら  
菜の花も黄色かった  
んだって

それも見たかったなあ



何度でも来よう  
一緒に




あの時もこうして  
鐘を鳴らしたね

ああ


44番目の  
恋人の聖地で

そして秋臣くんが  
プロポーズしてくれて


私、嬉しくて  
泣いちゃったね




あの後君は  
体を壊した



春になっても  
良くならないまま



あの時の秋臣くん  
私より死にそうな  
顔してた



そして君は



少しでも環境の良い  
田舎に越したけど

いつ死ぬか  
分からなくて  
外遊びの仕方も  
知らなくて

元々長生き出来る  
予定じゃなかったから

大人になる事は  
出来ないって  
言われてて

怖くて友達も  
作れなかった

そんな私を

秋臣くんが  
いてくれたから

私はここまで  
生きてこれた

秋臣くんが  
導いてくれたの

恋人の聖地

私 秋臣くんに  
出会えて

とっても  
幸せだった

だけど僕は

失った痛みに  
耐えられなくて

春香……!!

君のいない現実から  
目を背けた

伸びた前髪で  
覆うように  
見なくなった


そして君を  
創りだした

君との大事な  
思い出を忘れて

ねえ秋臣くん

あの時の言葉  
もう一度聴かせて





死が二人を  
分かつまで

否、死んでも尚



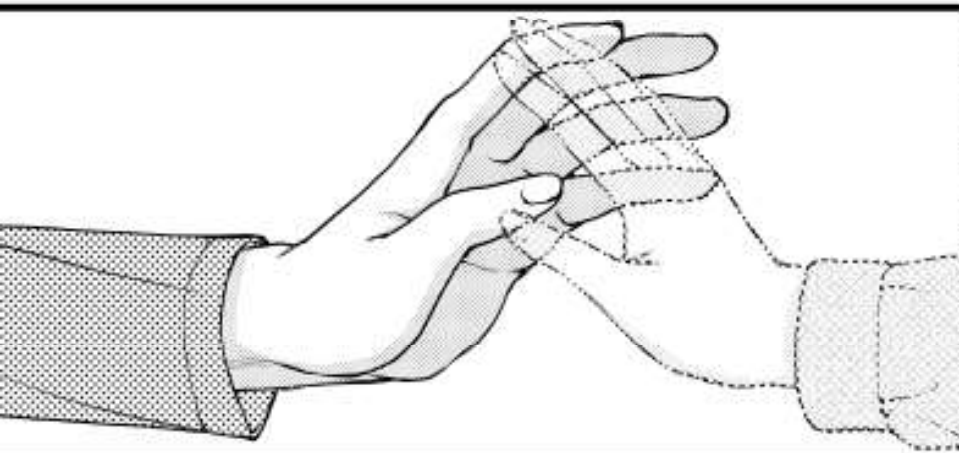
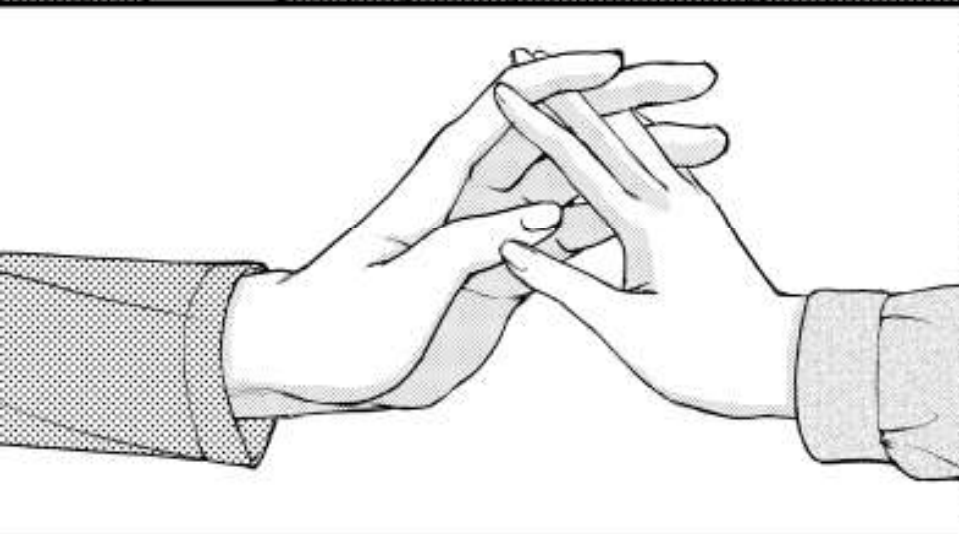
心は永遠に

君の傍に  
そば  
寄り添うよ

春香



はる——

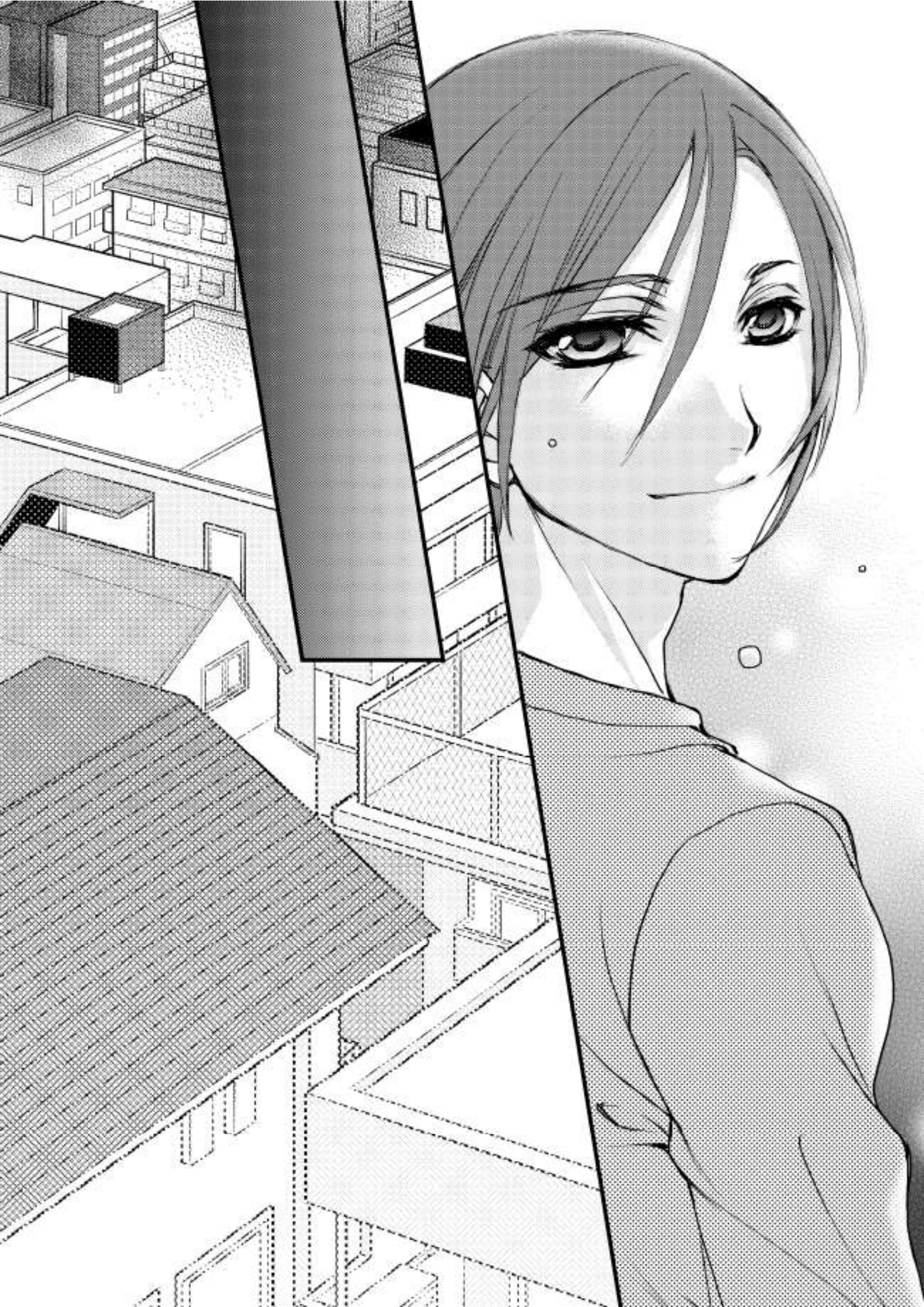



ありがとう

私も遠く離れても

秋臣くんの心の  
傍に  
いるからね








きっとこれからも  
僕は君を想って涙して




その度に胸が痛んで  
また逃げ出したく  
なるだろうけど



君が今も僕の心に  
いてくれる

その証だから



だからもう忘れて  
手放したりしない



僕はこの痛みと共に

前を向いて  
生きていくよ

行ってきます

いつかまた  
あの美しい場所で

君に逢える  
その日まで

